

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の多様性(ダイバーシティー)を尊重し、個性や能力を伸ばす教育課程を編成する。</li> <li>○生徒一人ひとりの学習や進路等の目標を実現させる。</li> <li>○生徒の主体的な学習を充実させ、学力を育成する。</li> <li>○授業改善の取り組みを充実させる。</li> <li>○高大の接続を意識した高大連携を模索し、新テストに対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎基本から発展的内容まで、多様性を尊重した教育課程を編成する</li> <li>②自学自習を重視した学習指導の効果について検証し、工夫・改善について検討する。</li> <li>③組織的な授業研究の発展を図る。</li> <li>④大学入試新制度への対応について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大学入試新制度に対応した教育課程について検討する。</li> <li>②「朝学習」、「週末課題」、「スタディジョギング」(試験前の放課後学習)等について、課題を検証し、工夫・改善を行う。</li> <li>③夏期講習や補習の募集時期や生徒にとって魅力あるテーマが何か検証し、自学自習の習慣づけを行う。</li> <li>④教科間連携や授業改善に係る校内研修を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大学入試新制度について、職員間の情報共有や生徒・保護者への周知が十分にできたか。</li> <li>②「朝学習」「週末課題」「スタディジョギング」等の実施をとおして、学力向上に一定の効果がみられたか。</li> <li>③夏期講習や補習の参加者が増加したか。</li> <li>④教科を超えた研修・研究により、更に工夫された授業が増えたか。</li> </ul>					
2 生徒指導 ・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織的な相談体制を整備する。</li> <li>○生徒一人ひとりの個を捉えた支援体制を確立する。</li> <li>○グローバル社会を生きる能力の獲得と自立する力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①組織的な対応によって、生徒一人ひとりへのきめ細かな指導・支援を充実させる。</li> <li>②グローバル社会を生きる能力・自立する力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①相談・支援体制を充実させ、職員間の情報共有を図り、組織的に対応する。</li> <li>②生徒一人ひとりが自由な主体的社会形成者として自他を大切にし、実行する力を育成する。また高い規範意識をもって国際社会を生きる力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒一人ひとりの課題や「困り感」に関する情報共有を図り、組織的に対応できたか。また、効果的な支援ができたか。</li> <li>②生徒一人ひとりが、服装・頭髪等の身だしなみや校内美化や時間を大切にする事の重要性を認識した行動ができているか。</li> <li>③グローバル社会で生きる能力・自立する力について、職員間の共通理解が得られたか。</li> </ul>					
3 進路指導 ・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が主体的に進路を選択できるような支援体制を確立する。</li> <li>○シチズンシップ教育の取組みを充実させ、生徒が積極的に社会参加するための能力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○将来を見通した自己のあり方を考え、それを実現するために、早い時期に目標を定めるとともに、高い志望を実現させるための支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①組織的・計画的な面談指導をとおして、適切かつ早期に進路目標を定めることができる支援を充実させる。</li> <li>②進路ガイダンスに関するこれまでの成果を踏襲し、生徒が主体的に進路を選択し決定できる力を育て、質の高い進路実現を図る。</li> <li>③各学年でシチズンシップ教育を実施し、自主的に社会参加しようとする意欲を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①面談指導のねらいを明確にできたか。また、時期は効果的であったか。</li> <li>②進路実現に関する生徒の意識向上、進路実現の成果が向上するために、進路ガイダンスは効果的であったか。</li> <li>③地域ボランティア等について、生徒の自主的・主体的な参加が増えたか。</li> </ul>					

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニティ・スクールを活用し、地域との協働を図り、生徒の生きる力を育む。</li> <li>○地域貢献活動やボランティア活動に取り組む意欲や行動力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の教育力を活用し、生徒一人ひとりの地域に貢献しようとする意欲を向上させ、自主的に行動できるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域の教育力を活用した「総合的な学習の時間」における表現活動や社会貢献活動に関する実践を定着させる。</li> <li>②委員会や部活動による社会参加活動の活性化に加え、より多くの生徒が参加できる活動について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域の人材の活用により社会に貢献しようとする生徒が増えたか。</li> <li>②委員会や部活動による社会参加活動が活性化したか。</li> <li>②自主的な行動を引き出す活動が見出せたか。</li> </ul>					
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PDCAサイクルに従い、グループ、学年、教科が教育活動を常に見直し改善する。</li> <li>○コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の役割を明確化し、機能的に活用する。</li> <li>○学びを支え、安全で安心な教育環境の整備に努めるとともに事故・不祥事防止の徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①昨年度に整理したコミュニティ・スクールの役割と機能を確認し、活用することによって学校の教育活動を活性化させる。</li> <li>②学びを支え、安全で安心な教育環境を整備し、事故・不祥事防止の徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①コミュニティ・スクールの各部会の役割と機能を確認し、活用する。</li> <li>②事故・不祥事防止を徹底するため、グループが主体となった事故防止会議を開催するとともに、効果的な啓発について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①コミュニティ・スクールの役割や機能について、全職員が理解・共有できているか。また、これまでの地域との協働の取り組みを継続し、教育活動が活性化できたか。</li> <li>②グループが主体となった事故防止会議が増えたか。</li> <li>②事故・不祥事防止に関する効果的な啓発が何か明らかになったか。</li> </ul>					